

「みことばはわたしを生かす」

第八回 苦しみから立ち上がる

— ヨブ記からのメッセージ —

海老名シオンの丘教会牧師 玉井 幸男



わ たしは、毎朝のランニングを日課としています。朝5時ごろから15キロほど走ります。

朝日を浴びて走ることは、なんとも言えない幸せな気持ちにさせてくれます。ときに面白いできごととに遭遇します。ある朝、気持ちよく走っていると、前方から全身まっしろな人が突然あらわれました。顔のバックをしたままウォーキングをしている女の人でした。心臓が止まるかと思いました。また、よくすれ違う人々と挨拶をします。ある人が犬の散歩をしていました。いつものように、「おはようございます」と頭を下げると、なんと飼い主さんではなくて、犬が絶妙なタイミングでベコリと頭を下げて挨拶してくれたのです！ほんとうに、すばらしい朝の出来事です。

わたしがランニングを習慣としたきっかけは、数年前に睡眠障害になってしまったことでした。夜なかなか寝付けずに、何をしても気が落ち

て手につかなくなりました。そのような失意の中で、仕事を制限し、ある講演会に出席しました。講師の先生は、セロトニン研究をされている脳科学の専門家の方でした。脳内物質であるセロトニンを活性化させるためには、リズム運動と朝の光を浴びることが大切だと教えてくださったのです。その次の日から、朝起きてウォーキングから始め、少しずつ走り始めました。普段の食事で摂る栄養も気遣うことによって体調はどんどん変化していききました。時間はかかりましたが、やがてぐっすりと眠れるようになり仕事に復帰しました。

ここではすべてを書くことができませんが、想像を超える苦しい道でした。しかし大切なことを教えられました。それは、わたしは倒れても大丈夫、ということですよ。いやむしろ、一度、苦難の前で自力では全く立ち上がることでできない経験を通して、わたしを造り変える神さまの愛のわざを見させていただくことができました。苦難は神さまの裁きでもなく、倒れることは信仰が弱いからでもあります。神さまの愛のわざが現されるためです。そのことの意味をヨブ記から見たいと思います。

旧 約聖書に登場するヨブは、家族に恵まれ、物質的にも豊かで、愛情深く、何よりも信仰深い人でした。「無垢な正しい人で、神を畏れ、悪を避けて生きていた。」(ヨブ1章1節)。正しい人であるヨブは一心に神さまに向かっていきます。

倒された人ヨブ

ヨブは神さまにヨブを試みることを願うので、1章6節「ある日、主の前に神の使いたちが集まり、サタンも来た。」サタンの声が大きく響きます。「利益もないのに神を敬つてしようか。」(1章9節)「彼の財産に触れてごらんなさい。面と向かってあなたを呪うにちがいません。」サタンの声が響いた時、ヨブに災いがやってきました。財産、家畜、大切な家族・・・次々と奪われます。しかし、ヨブは地にひれ伏して「主は与え、主は奪う。主の御名はほめたたえられよ」と、かすかな祈りの声をささげます。サタンは、諦めません。ヨブがやっと立っているもう一步の足を打ち砕こうとします。再び神さまに言います。「手を伸ばして彼の骨と肉に触れてごらんなさい。面と向かってあなたを呪うにちがいません。」(2章4節)サタンの計画は大成功のように見えました。ヨブは人々が目をそむけるほどの皮膚病におそわれました。ヨブは、人生を呪い、生きていくことを悔やみ、暗闇に取り残されました。

倒れた！倒れた！大喜びでサタンが声をあげています。狙い撃ちは成功です。ヨブはもう起き上がれないでしょう。その苦難は人の想像をはるかに超えたものであったからです。

みことばが在る

今 から約20年前、私が神学校を卒業して、教会の伝道師としてまだ駆け出しのころで

す。当時の主任牧師であった先生と、病院に訪問に行きました。そこには言葉を失い、うなだれているご夫妻がいました。お腹の子どもの誕生を心待ちにしていたご夫妻ですが、その命の誕生を待たずに、お腹の子どもは天に召されてしまったのです。深い悲しみが伝わってきました。何も言葉をかけることができない状況です。何を祈ったらいいのでしょうか。

一緒に行った先生が静かにみことばを開きました。創世記8章8節、ノアの箱船の箇所です。洪水の後のノアのある行動が記されている場面です。「ノアは鳩を彼のもとから離して、地の面から水がひいたかどうかを確かめようとした。しかし、鳩は止まるどころが見つからなかったため、箱船のノアのもとに帰って来た。」そして、静かに祈り始めました。「神さま・・・わたしたちは心を痛めて祈っています・・・この子はあまりにきよく、

愛おしく、神さまが手放すことができないほどの天使のような存在なのです。・・・この地上には汚れが多くて、あまりに愛おしいこの子が止まる場所を見出すことができませんでした・・・あなたの手の中に、天の豊かな恵みの中に留まることかふさわしい子です・・・。「静かな光が差し込んでくるような祈りでした。それでも悲しみがすぐに解消するわけではありませんし、痛みが簡単に癒さるわけがありません。しかし、そこに、この地上の悲しみの隣に、神さまの慰めのみことばが在りました。

トンネルに出口はない？

苦 悩の意味を見出すということ——それは本当に辛い経験にあった人こそ簡単には語れないことを知っています。ヨブは、出口の見えないトンネルを歩いているようでした。共にいてくれる友人たちがおり、ヨブに対してアドバイスはしましたが、どれも本当の解決の道を示すことはできないばかりか、ヨブをさらに苦しめました。

実は、このトンネルには出口がなかったのです。サタンは、この世の解決という出口をすべて塞ぎ、人間関係の絶望の闇に閉じ込めようとしているのです。何という恐ろしい計画でしょうか。誰も太刀打ちできない暗黒の極みです。トンネルに出口がなければ、どこに解決を見出せるのでしょうか。